


## 2023 年度 研究サマリー

研究会名称	東京腎臓病対策研究会	
代表者所属	東京女子医科大学腎臓内科	
代表者氏名	星野 純一	
研究方法・結果	<p>本年は、研究会初年度であり、多施設研究体制基盤を新たな構築し、多施設合同の web 病理検討会の企画立案を行い、実際の運営を開始した。</p> <p>また、多施設コホートの構築を進めるとともに、まずは東京女子医科大学病院内における多発性嚢胞腎に関する単施設コホートを構築し、本コホートを用いて下記臨床研究を実施した。</p> <p>ADPKD を有し、トルバプタン治療導入を行った 72 名について、投薬開始後の尿浸透圧の変化とその後の年間 eGFR 変化率を検討した。</p> <p>ベースラインの尿浸透圧 (U-Osm) は <math>351.8 \pm 142.2</math> mOsm/kg H<sub>2</sub>O であり、投薬開始同日の夕方には <math>97.6 \pm 23.8</math> mOsm/kg H<sub>2</sub>O に低下した。ベースラインの尿浸透圧低下は投薬開始 1 か月後まで持続しており、<math>160.2</math> mOsm/kg H<sub>2</sub>O であった。また、ベースラインと 1 か月目の尿中アクアポリン/尿クレアチニン比は尿中浸透圧と同様の推移を示した。</p> <p>投薬開始後の年間 eGFR 低下と、投与日夕方、投与翌日、投与 3 日目、投与 1 か月後の尿浸透圧との相関関係を検討した。投与日夕方の尿浸透圧低下が年間 eGFR 低下と最も良好な相関関係を示した (<math>\beta = -0.29</math>, <math>p = 0.014</math>)</p> <p>従って、トルバプタン投与開始後早期の尿浸透圧低下は良好な腎予後に相関する可能性があることが示唆された。</p> <p>本研究は、Nephrology Dialysis Transplantation 誌に報告した。</p>	
研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)	<p>1. Akihisa T, Kataoka H, Makabe S, Manabe S, Yoshida R, Ushio Y, Sato M, Yajima A, Hanafusa N, Tsuchiya K, Nitta K, Hoshino J, Mochizuki T. Immediate drop of urine osmolality upon tolvaptan initiation predicts impact on renal prognosis in patients with ADPKD. Nephrol Dial Transplant. 2023 Nov 3; gfad232. doi: 10.1093/ndt/gfad232. PMID: 37935473</p>	